一泉

発行所
〒921
金沢市泉野出町３丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内
一泉同窓会
電話(0762) 42－0211
1992. 8. 1発行

母校創立100周年
皆様のいっそうのご支援を

一泉創立100周年記念事業実行委員会

来年は、我らが一泉創立100周年であります。

この記念すべき年を迎えるに当り、100周年の節目を意義あるものとして、後世に残すと共に、さらに21世紀へ向けての一大飛躍を期し一泉同窓会基金の設立をはじめ、多彩な記念事業・行事を計画し実行することを決定、その準備活動を、一昨年８月から各卒業年度における常任委員、世話人の方々が中心となって強力に進めて参りました。

お陰様で現在の募金状況は、別記のとおり総目標額の半分余達成しました。しかし昨今、遺憾ながら低調で、最終目標迄にはまだ相当の開きがあります。

同窓生諸兄姉のなかには募金のご意志をお持ちでありながら、時期尚早感や所用繁多のため、まだご送金頂けない向きもあることと存じます。

「光陰矢の如し」のとおり、残り１年有余で記念日当日が参ります。

各位におかれましては、何卒いま一度、以上の趣旨をご理解のうえ、早めのご協力、ご送金を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

とくにご存じの通り、一泉同窓会基金の設立は、在校生の人材育成などを目的としており、各分野において活躍の場を作ることもあって、この100周年記念の募金を第１次基金としてスタートするものであります。

これら基金の目的達成と記念事業、行事遂行には、多額の資金が必要であることは勿論、同窓生一人ひとりの深いご理解と暖かいご援助があってこそ実現できるものと確信いたしております。

是非、桜章健児の意気を顕示し、「一泉」にふさわしい100周年記念事業を成功させたく、諸兄姉各位の一層のご支援とご協力をひとえにお願い申し上げるものです。

「思い出の校舎」高川義一・画
（一中35期・一泉桜美会会員）

一泉創立100周年記念事業募金状況一覧表

平成4年5月31日現在（単位千円）

卒業期	募金額	達成率%
一中		
～30	245	
31	115	95.8
○32	1,180	786.6
○33	450	281.2
34	125	59.5
○35	305	203.3
○36	285	158.3
○37	217	120.5
○38	305	190.6
○39	530	100.0
○40	700	106.0
41	957	147.2
○42	875	125.0
43	500	89.5
○44	862	119.7
○45	735	100.6
46	570	67.8
○47	721	100.0
48	630	75.9
○49	1,200	121.2

卒業期	募金額	達成率%
一中		
50	1,690	74.1
51	1,000	43.1
52	1,190	48.1
53	1,510	62.9
54	1,700	47.4
55	1,630	51.5
56		
57	960	30.6
58		
一高	400	12.9
泉丘2	1,690	96.0
3	2,020	63.5
4	1,000	20.9
5	250	5.6
6	3,000	60.1
7	2,600	50.9
8	3,660	63.3
9	2,720	43.9
10	2,480	41.8

卒業期	募金額	達成率%
泉丘		
11	2,800	55.6
12	3,900	80.7
13	1,470	28.4
14	2,213	43.0
15	800	15.5
16	2,220	52.3
17	1,810	31.8
18	3,200	56.7
19	2,328	45.3
20	1,800	36.5
21	1,235	34.9
22	1,080	34.0
23	740	23.8
24	1,280	40.6
25	895	29.7
26	280	9.5
27	800	28.1
28	700	24.6
29	700	25.0
30	500	17.6

卒業期	募金額	達成率%
泉丘		
31	597	42.0
32	365	25.7
33	255	17.7
34	505	31.6
35	346	21.6
36	437	27.3
37	200	12.5
38	310	37.8
39	337	37.4
40	350	35.7
41	425	47.7
42	608	68.3
○通信	2,200	110.0
合計	78,693	52.4

○印は目標達成された期です。

宇宙をめざせ、新しい世代のエネルギーに点火を
100光年の星の光を求めて

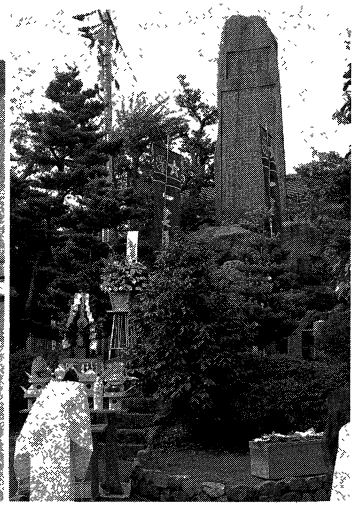
100年前、母校誕生の時に、宇宙の遙か彼方の星が放った光を、今我々は眺めることが出来るのである。遠い過去のように思える100年前の光を、今現実のものとして見ることが出来るのである。平成5（1993）年10月15日の創立100周年記念祭の夜空を、ハクチョウ座やアンドロメダ星雲の近くにある100光年の星達はどんな光で飾ってくれるのだろうか。

かえりみれば母校の歩んだ100年は我が国が辿った道そのものであった。それは精一杯に生きて来た人間の歴史の道筋であり、もはや善悪を超絶した目で見なければ整理しがたい血のにじむ様な年月であった。今、此の100周年記念の節目に当たり一泉同窓生のたどった道を尋ねれば、その活躍は竹の根のごとく世のあらゆる分野に根深く広く、ある時は陽の当たる場所に、又目立たぬ所にあってもしっかりと世を支える柱となってその力のいかに大きく、数のいかに多いかを知るのである。そしてこのような我々同窓生を育ててくれた母校と、我々を永い間静かに暖かく見守ってくれた地域社会の人々に感謝の気持を捧げずにはいられないのである。

一泉同窓会は、これからの母校の歴史がより高く広く遠く遙かに果てしなく続くことを願いながら100周年記念事業をすすめている。互いに声を掛けあい、例え小さな力であろうともより多くの方々の力を集め続けてそれが大きなうねりとなり、ついには臨界状態に達してひとつとなった情熱のかたまりが美しく昇華する日が実現することを心より祈り続けるものである。

一泉同窓会総会・懇親会
今回も参加者500名を超ゆ!!

(澁谷亮治会長あいさつ)



(厳霜碑前・物故者供養)

平成3年度一泉同窓会総会並びに懇親会は昨年のように500余名の会員が集い、10月15日午後6時半から金沢駅前の金沢全日空ホテル「鳳の間」で開催された。

例年のように午後3時から泉野出町の母校泉丘高校前庭の厳霜碑前で澁谷会長、船登泉丘高校長はじめ同窓会役員、会員、学校教職員等が参列して物故会員の冥福を祈った。

午後6時半からの総会は澁谷会長の挨拶につづき、船登校長の母校の近況報告につづいて米谷100周年記念事業実行委員長の挨拶があり、大門実行委員会事務局次長から実行委員会各委員会の活動並びに現況報告が行われた。

終って同会場で懇親会に入り、懇親会当番期を代表して杉野好宏幹事が挨拶、最長老一中33期の藤田誠一氏の乾杯音頭で開演、今年はアトラクションとして友禅花太鼓の女性の華やいだ勇ましい演技が行われ、会員全員しばしア然…会場がもりあがった。あと例年のごとく校歌や応援歌が昔懐しくうたわれ、各テーブルでは恩師や旧友と交語が展開されていた。名残はつきないものの午後9時頃一泉同窓会のますますの発展と創立100周年事業の成功を祈念して39期の山瀬芳男副会長の万歳三唱で盛大裡に懇親会を終了散会した(なお本年度の幹事期は泉丘10、11、19、20、21期の会員により運営が行われ、平成4年度の幹事期は泉丘11、12、21、31期にお願いすることになった)

学友会名簿を貸して下さい

名簿委員会からのお願いです。学友会名簿が諸々の意味で資料価値大なるものがあります。昭和5年度までのものは一泉同窓会資料室に保管されていますが、昭和6年度以降について、お手持ちのものがありましたらお貸し下さい。ご寄贈願えれば一層幸甚です。

○貸してほしい学友会名簿

昭和6年度、7年度、9年度、10年度
11年度、12年度、13年度、14年度
15年度、16年度、19年度

同窓生の集い

【一中三三会（大正15年卒業）第20回大会】

5月20日、島尾海岸「潮騒」で平均年令85歳の同窓会が催された。集う者、同伴者も含めて僅かに14名。近年とみに参加者の減少は寂しい限り。

総会は例年通り、物故者追悼の黙禱に始まり、会務、会計、近況報告と進み、本年は特に藤田幹事から兼六園に関する卓話あり。さきに兼六園が国の「特別名勝」に指定されてより、兼六園再発見が叫ばれて、ここ数年年間入園者数は連続日本一となる。それだけに園の維持管理は関係者の並々ならぬ陰の労苦が窺われる。菊桜（現在は2代目）、根上りの松、唐崎の松等々幾多の名木は万一に備えて夫々2代目、3代目が畑で育成されているとのこと。

総会後の宴席は年令のせいか、酒量も余り進まず、ひたすら懐旧談に花を咲かすのみ。小出夫人ご配慮の歌詞プリントにより、昔懐かしい大正ロマンのカチューシヤの唄、ゴンドラの唄、船頭小唄、出船の港、さては紅屋の娘等々十数曲を10代の昔に還って声高に混声合唱、最後は校歌斉唱で締め括る。

翌21日も前日に増して快晴に恵まれ汗ばむばかり。記念撮影の後、観光バスで義経ゆかりの雨晴、

万葉のふるさと二上山、さては高岡大仏、砺波平野の散居村等を車窓に眺め、井波彫刻の門前街を歩いて瑞泉寺に参詣、庄川峡の「山だや」にて鮎料理の昼食をとって少憩。高岡駅に戻って一部の方々を見送り、午後3時半、来年の100周年再会を約して金沢駅西口で解散。

〈参加者（○印は同伴者）〉　（関東）武藤文雄　村上外雄　小寺俊一　○高田小市（長野）○小出武（高岡）○和田光　（金沢）岡田一男　○井口政雄　○藤田誠一　（藤田記）

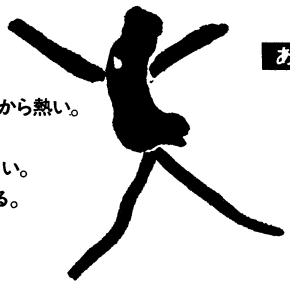
【一中35期（昭和3年卒業）4年度総会】

5月15日、2時に香林坊大和裏に集まり宿からのバスに乗る。14名の出席。昨年の12名を上廻ったのはおどろき。小立野台を走りぬけて湯涌につく。会場「湯の出」は平成元年にも会場にした宿だが、場所も変り建物も全く新しいスマートなものに変わっていた。一服した後、本屋の仏間を貸して貰って物故会友118名の追悼法要をしめやかにとり行った。掲げられた名簿を前にしてひとしきり思い出話がつづいた。会までの時間をゆっくり湯ぶねにひたる。医王山の峰々の雲の流れと眼の下の里の桐の花の紫を眺めながら。

6時から広間で総会。昔なつかしい桜章校旗を正面に掲げ、遠来の脇水・福田・安原君を中央にして、宴会は9時まで続いた。「雲に聳ゆる白山の高き理想を心とし…」テープの流れに声はりあげる若さがまだ残っているのは不思議だった。ススタケやワラビの山菜料理、イワナのうま煮もよく、舌鼓をうった。翌16日は雨もやんで「朝酒も又格別」と朝食も元気いっぱい。来年を約して香林坊まで来て散会した。

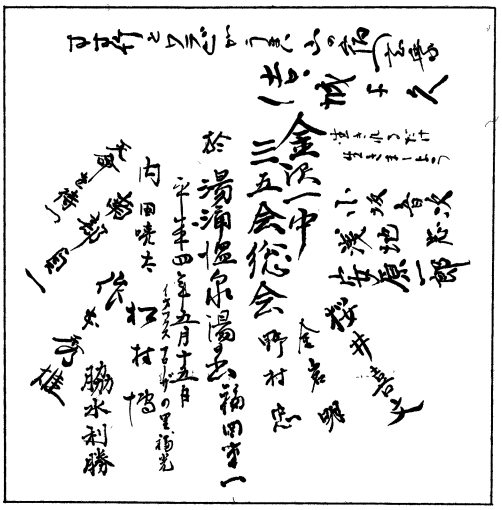
〈出席者〉　浅地忠　内田喨太　大森玄衆　金岩明　小坂音次　作本秀雄　桜井喜文　南部貞一　野村忠　福岡重一　松村博　安原一郎　結城与久　脇水利勝　（大森記）

炎はいつも、一所懸命に燃えているから熱い。
あなたのエネルギーをください。
あなたもエネルギーになってください。
ひとりじゃないから、いろいろできる。
みんなの体温が太陽になる。
さわると熱い会社です。



特高受電からFAまで
あらゆるシステムをドラマチックに実現します。

株式会社 別川製作所
代表取締役社長　別川　献
本社・工場 〒920-03 金沢市寺中町イ1番地 Tel(0762)67-1211(大代表)



【一中七桜会（昭和7年卒業）地元例会】

暑かった夏も過ぎ故里の山野は爽やかな秋となり樹々も日一日と色づいてくる。然し台風が次から次へと発生するこの頃、平成3年9月19日七桜会地元例会を会館加賀別館紅梅荘で開催する。暫らく会わない間に今年になって中村敬一、村下公省、宮野宗一兄の学友が亡くなられ、ありし日の面影を偲び哀悼の極みである。今までに97名の学友を失って居り心から冥福を祈り黙祷する。今日は平塚より高松一吉君が出席の予定であったが運悪く台風18号で新幹線不通で止むを得ず欠席となり残念であったが地元メンバー16名集まる。

明年の七桜会全国大会を5月に開催すること、又100周年記念事業の成功を祈念し若き日の想い出話がつきなかった。

入院中又病床の学友の病状を案じ一日も早き快癒を切に祈り次の会合を約し散会する。

〈出席者〉　浅香鉄次　岩脇他計雄　川崎芳雄　塩田和一郎　高村伊作　長沼久喜　西田外喜雄　張江啓　福田外喜二　三須外男　南為二　村田尚一　吉岡秀雄　吉倉遠次　吉田克巳　山瀬芳男

【一中39期（昭和7年卒業）60周年全国大会】

本多ケ森の金沢一中を卒業して60年目。これを節目として5月14日全国大会を開催した。毫壽を過ぎ八十路へと歩む往年の桜章健児29名が大和裏の一中応援旗の下に集まる。3時新緑に映える加賀路を粟津温泉辻のや花乃庄へと進む。車中は互に体調や若き日の話題に花が咲く。18時往年の好顔の美少年も今や白髪禿頭の記念撮影をし亡き学友105名の冥福を祈って懇親会に入る。

小唄、謡曲、ハーモニカ演奏、カラオケ……最後は一中応援歌、校歌の大合唱、クライマックスとなり散会。引き続き一室に集合し桜章健児時代の話題で時を過ごした。

いよいよ八十路へのスタートに立つ我々のこと、ゴールは5km先かそれとも10kmか20kmか、今日の一期一会の集いをこれからの新しい余世への出発とする。

翌朝帰路後輩泉丘高校に立寄り厳霜碑に額づき、本多ケ森の校舎跡を訪ね懐かしい想いにふけり厚生年金会館でお別れパーティーをし、次の再

HOKUWA
北陸電話工事株式会社
取締役会長　大西武夫　取締役社長　松田利三
本　社　〒920　金沢市大手町2番3号　☎21-6116　FAX65-5511
支　店　石川・富山・福井

会を期し想い出多き全国大会を有意義に終る。
〈出席者〉　伊藤直之　瓜生復男　赤隆　高井誠二　高松一吉　高村義次　竹下六都夫　水上七雄　幸村博敏　近藤豊作　平岸博　越村衛一　浅香鉄次　岩脇他計雄　国見弘臣　塩田和一郎　高桑末次郎　高村伸作　長沼久喜　張江啓　福田外喜二　三須外男　南為二　村田尚一　室賀喬　吉岡秀雄　吉田克己　山内英一　山瀬芳男　　（山瀬記）

【一中40期（昭和8年卒業）八桜会全国大会】

昭和8年3月本多の森にあった県立金沢第一中学校を卒業して、もう50數ケ年に及ぶ春秋星霜を経ており、今更時の流れの迅速さに驚いています。よくもここまで生かされたと云う感謝の思いに満される一方、今はなき同窓の学友に対する追憶の切なるものがあります。

八桜会の全国大会は毎年開催され、昨年は京都の有名な料亭で盛大に行われました。

平成3年は湯涌温泉湯の出旅館で去る9月29日開催され、全国各地から28名の大勢が参加しました。

戦前戦中戦後と近代日本史と共に歩んだ私どもは大東亜戦争の物故者の多いのは別としても毎年何名かが功なり名遂げて鬼籍に入られることは、世の習いとは申せ誠に痛恨事であります。会の劈頭、金沢大学の名誉教授の福田尚造先生から2名の物故者のご報告がありました。

1名は今村拓先生で、金沢泉ケ丘高校の教頭先生から郷土資料館々長になられ、退職後は悠々自適の毎日だったそうです。もう1名は富山のお医者様織部道雄先生で、今度の大会に出席することを楽しみにしておられましたが、數日前に黄泉の旅路につかれた由で、この2名の方に心からなる黙禱を捧げました。

つづいて、箕打八桜会世話人から経過報告があり、竹中工務店の八十島様の乾杯の音頭で宴会となりました。お膳には山海の珍味が並び、その上次から次とご馳走が運ばれ参加者一同おいしさに舌鼓を打ちました。

待遇接待にも心を込められ各人満足し、来年まで、たまゆらの命ありせば再び全国大会をこの湯の出館ですることに、衆議一決しました。懐しさが先にたってか、談論風発盃のやりとりも進むにともない、湯宿の美麗なる女性が登場し、數々の踊りを披露し宴会はこの上もなく盛りあがりました。

万才の三唱に引き続き部屋での懇親の宴が始まりまして、湯涌の一夜はまさに桃源境の感が致しました。今や超高齢化時代、文豪ゲーテも若さは心の持ちよう80歳にして尚青春があると、申しておられます。

お互に若い気持ちになって頑張りましょう。元気で来年度の八桜会全国大会を!!（福田正秋記）

【一中47期（昭和15年卒業）十五桜会】

昭和15年卒業の十五桜会同窓会は、毎年、関東、関西、北陸の幹事の世話で持ち廻りする原則にしたがい、本年は関西南紀白浜温泉の「南紀やすらぎ荘」で、平成4年4月22日開催した。

生憎22日は風速13.5m/h以上となり、東京からの飛行機が欠航したため、在京の福岡幹事以下残念ながら出席できなかった。

定刻6時地元の元田君の司会で大蔵乾事から同期生の近況ならびに来年の一泉100周年の行事と

能登集古館　南　惣

館長　南　昭三（金沢一中53期）

（輪島市町野町東大野　TEL（0768）32-0166

来年の十五桜会の計画について説明があり、来年10月14日金沢で再会することを約した。

惜しむらくは最近昇天した松尾裕三郎君（旧姓後藤）坂井一栄君、福沢秀一君、米村大蔵君の4君の冥福を祈り全員黙祷を捧げた。

今迄同期の名簿で不詳だった今井晋君が一泉100周年の名簿委員会の努力により発見され52年ぶりに同期生に感動の対面をしたが、お互いに顔がわからなかった。

今井君は戦争中生死の間を彷い帰国したが同期生の親しい友は多く戦死した為同期生との連絡も絶たれ、以後同志社大学で哲学を教え現在に至ったが、もっと早く同期の諸君に逢いたかったと感激を述懐した。

その後、出席者全員が近況報告と一中時代の思い出を語ったが特に東京の山口君の石川線の電車の中で鉄砲の弾を三中生に配り、学校でも同期生に配ったのがバレて謹慎をくらったエピソードをユーモアたっぷりに話したが現大阪機工の会長の森沢君にも「お前も秀才だったが謹慎だったなあ……」と、又本当の秀才は「カジリ」ではなく一番ピリで綱渡りしながら落第しないで一中の5年間を楽しく勉強したものだという結論だった。

余りにも話すことが多く宴会も予定時間より1時間も延び、最後に全員で一中校歌を高らかに合唱した。翌日は鮮烈な黒潮の香りに心をゆだね、思い思いにタクシー等に4～5名づつ乗り観光地を巡り、思い出の南紀の旅を終った。

当初29名の出席予定だったが暴風のハプニングや公務、急病の為、出席者は次の様になった。

（関東地区）　中野　深見　山口　（関西地区）今井　木村博　元田　森沢　木村和夫妻　（北陸地区）　飯田　大蔵　大屋　金崎夫妻　島村　浜屋夫妻　縄野　三須　（大蔵吉夫記）

【一中50期（昭和18年卒業）平成3年度同窓会】

さる10月26日午後6時より厚生年金飛火野荘で50回生による同窓会を開いた。昨年、伊豆下田での会合で本年は関西でということで年初より有志で種々検討の末に奈良市内で実施することに決めた。

場所がら当日は午前中に訪れ、近くの新薬師寺その他天平の古社寺や鹿の群れと遊ぶ奈良公園の散策に、また当日から開かれた正倉院展には著名な宝物の一つ、螺鈿紫檀五絃琵琶が10年ぶりに、鳥獣背八花鏡が12年ぶりに、また初公開の物もあり人々の混雑の中を同窓生の諸氏も観賞できたことは幸運だった。

記念写真を撮影したあと関西地区の寺田氏の歓迎の挨拶、金沢の西坂氏の会計・事業報告などを終えて親睦会に入った。金沢・関東のほか遠くは九州・新潟からも馳せ参じ、34名の多きに達す。

26日夜半より27日朝まで雨となるも自分で選んだコースに出かけた人もあり、22名はバスで飛鳥・白鳳・天平の美を求め斑鳩（法隆寺）から西ノ京（薬師寺・唐招提寺）、奈良（法華寺）へと訪ねた。期待していた夢殿秘仏の救世観音像も旅行者多く、室内も薄暗くよく見えなかったことは残念だった。

来年は白峰での再会を約し、帰路に着いた。

〈参加者〉浅井敏郎　厚見外男　市野孫之丞　上田恵　大岩利磨　大森三郎　岡島重雄　奥清明　尾上嘉男　改田直己　勝田博　河嶌正康　小柳章

百万石城下町/金沢の旅亭

三竹屋

〒920 金沢市西念町102街区8
TEL(0762) 31－1177
FAX(0762) 31－1179
代表　土　橋　寛　美（昭和20年卒業）

北村尚善　佐藤正千代　清水外明　新谷行雄　杉山直弘　高本豊正　寺田猛　得能与三郎　西坂弥三郎　新田史郎　野村庄一　畠一平　深見外志治　藤浦鋭夫　堀吉彦　南野清一　室賀共　森外茂次　安田俊男　山田順　吉岡外美雄

【一中排球部同窓会(平成3年9月6日、7日)】

粟津温泉天翔閣に於いて、排球部同窓会をひらきました。41回から58回まで62名に連絡しましたが出席者は14名。議題の100周年記念の一泉バレーボール同窓会の行事、一中排球部史作成、役員改選等を討議した。後の宴会は大いに盛り上がり、中学時代にかえり楽しい時をすごした。各室、帰ってもまだまだ酒宴は続き全室の冷蔵庫の酒は空になってしまった。全員が老人の域に達しているが元気で酒豪が多い同窓会です。来年の幹事は阿部君に決まり、朝食後、再会を約束して、開散した。

〈出席者〉中島悦郎　北村栄勝　新田義博　高木郁男　河合一雄　越野栄一　長井外喜保　西坂弥三郎　阿部正一　伊藤岬二　松任重於　近藤外志雄　近藤隆　長谷川外司　（西坂記）

【一泉剣友会平成3年度総会】

去る平成3年11月23日、一泉剣友会の総会が金沢泉丘高校の剣道場にて盛大に開催されました。

総会では決算報告、役員改選、事業計画等が可決承認され、高辻秀時前会長の後を受け、高川義一会長(一中53期、元金沢泉丘高校教頭)、雄谷助成副会長、金田宗大副会長、船木一璋幹事長、長谷川幹会計の新体制にて、いよいよ来年に迫った創立100周年記念事業の成功を目指すことになりました。

引き続き、現役生との合同稽古が行なわれ、昭和9年卒業の伊佐先輩をはじめ、10数人のOBが、いい汗を流しました。

私自身、10数年ぶりに母校の道場に立ち、先輩方や後輩諸君の立派な稽古を目の当りにすると、先輩方の長い努力の中で形成された輝く伝統が、後輩達の中に継承され、更に発展して行くことの素晴らしさに感動し、ここにこそ一泉剣友会の意義があるのではないかと思いました。

合同稽古の後は会場を金沢スカイホテルに移し、懇親会が行なわれました。大正15年卒業の田中先輩はじめ、多数の方の出席を頂き、和やかな雰囲気の中で一泉剣友会の伝統と発展を、夜が更けるまで語り明かしました。　（荒木泰登城記）

【第5回三馬一泉同志会の集い】

第5回三馬一泉同志会は6月17日、昨年と同会場のニューグランドホテルで開催された。

当日は、井村理事の司会により平松会長の挨拶、大西会計よりの4期決算報告、5期予算案が提出

加賀料理
季節懐石
料亭 清風荘
金沢市東山1-19-1
(0762)52－2824㈹

日本料理 泰鮮
金沢市橋場町2-10
(金沢シティモンドホテル2F)
(0762)60－3322

され、全員拍手で承認無事総会を終え、引き続き多忙な中御足労願った大門重樹（泉丘２）創立100周年記念事業事務局次長より記念事業の内容、募金の集まり状態などについてのレクチャーがあり、松村副会長の補足説明と総会終了の挨拶があり、席を移し、愈々懇親会となった。懇親会は野崎副会長の挨拶、浅村氏の乾杯の音頭により始まり、同ホテル勤務庄田氏の肝入りにより心置きなく飲み、食べ、語り、そのうち応援歌、カラオケの競演となったが、残念ながら９時すぎ、太田氏の万歳三唱のうちに一次会を終えた。

そもそもこの会は当時三馬校下の町会長を務められていた野崎・亀原・小村・井村・大西の５氏が同窓生であるという関係であったことからもっとこの輪を拡げようということとなり平松氏を会長にお願いし、発足したとのことである。金沢市内にはこの様な会はまだ出来ていないと思われ、我々同志会は先鞭者であると自負出来るが、各氏の挨拶の中にもあった様に全会員130余名の中の参加率が低いからもっと誘い合おうと檄も飛んでいた。来年は100周年でもあり、是非とも多数の参加者があることを願っている。　（高橋記）

〈参加者（28名）〉ゲスト　大門重樹　平松昌司　浅村一二（一中49）　太田道雄　野崎実（50）　亀原理（51）　小村久信（53）　山本道生　土屋功（54）　栖田洋（55）　中規矩雄（56）　松村晴夫　沓掛進　井村長祝　本龍治（泉３）　長田八栄子（４）　角信平（５）　中谷道子（６）　大西俊治（７）　加藤弘雄　中田一郎（８）　高橋威（10）　川井田利彦　升田克良　鈴木厳（14）　庄田正一（16）　山守志朗（17）　井田圭子（18）

【一中41期（昭和９年卒業）関東桜章会】

昭和９年に一中を卒業した同期生で組織している関東桜章会は２月14日大塚、大和田で懇親会を開催した。今回珍らしく出席した野田茂（医師）を囲み、青春の桜章健児時代の話題に盃を傾けて懇談した。

〈写真〉

（後列）高岡達　谷村弘　北本一平　伊藤和夫

（中列）南丁巳知　山口社義　山岸智十郎　梶本義男　田中喜良

（前列）重田周蔵　須田正春　野田茂　天野真佐雄　杉田正

【一中46期（昭和14年卒業）クラス会総会】

平成４年度のクラス会総会は、６月20日天下の名泉山中温泉は廰泉閣において開催されました。関東地区より、村井又兵衛、村上淳男、吉田喜市、西田勝次、関西地区より細川熙、中村英司の諸君に北陸地区を加えて、総勢31名、皆古稀を過ぎたとは云え、まだまだかく鑠とした姿で参集し、互の健康を祝い、久し振りの顔合せに時を忘れて語りあいました。

昨年発刊して好評だった厳霜年報の第２号を出席者全員に配布し、一段と内容の充実した年報を手にとり、風雪を経てきた同期の友の消息や論説、随筆、詩句等を読んで心温まるものを覚え、第３号は一中創立100周年記念号にしようということになりました。

懇親会は、昨年の総会以降に世を去った青梅、土井、北村の３君を含め、今は無き友69名の冥福を祈る黙禱にはじまり、内田会長のいつまでも元気で46期の結束を固めようとの挨拶や、名誉ある叙勲を受けた西田勝次君、金谷与平君の挨拶等、46期まことに多士済済、宴会は刻々ともり上って、誠に盛会となりました。

然し残念ながら年々出席者は減少することも事実、来年は一中100周年記念の年であり、次期総会には１人も欠けずに出席再会しようと誓いあった

次第です。

終りにクラス会開催にあたり、一泉同窓会事務局のご協力に厚く感謝いたします。

（松本忠男記）

追記　厳霜年報第2号は「一泉文庫」に寄贈いたします。

我が一中時代の思い出

回顧・本多町界隈（その2）

一中44期（昭和12年卒業）藤木弥三郎

校門周辺

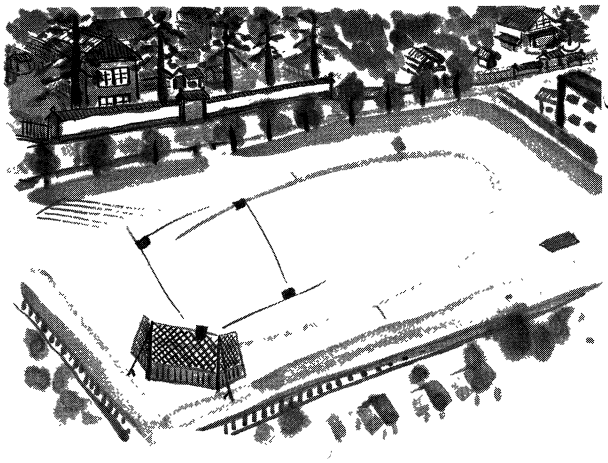
広坂から南の方へ校門に向かう。左手にある石浦神社は昔のままで、境内のつきるところの建物に藩政期の火消の道具が展示してあるのが懐かしい。この建物の裏、左に入る小路の奥に当時では珍しい英語塾があった。右側は今はフェンス越しに金大の付属小中学校運動場が見えるが、50年前は、ここは女子師範・県立第二高女の敷地。低い土手の上に板塀があって、内側をうかがうことはできなかった。「男女七才不同席」今は昔の物語。

白いペンキ塗りの校門の奥に校舎が見えてくる。路は校門の所で右折、すぐ左折して武家屋敷の土塀がキャンパスと路を分けていた。現在、道路に突き出るようにして2本の松と1本の栂の木がそびえている。交通の障害になるとの声もあるが、一中の本多町キャンパスを見守っていた樹々である。根元には低い石組が15間ほど残っている。これが一中敷地と路とを分けていた石垣。近年泉丘高校の後輩が、記念祭前日に〝一泉行列〟と銘打って、このたもとから泉丘の校舎まで、昭和12年（1937年）の校舎移転のルートを巡行しているという。

運動場

今も残る石垣と松の木の前に、「あたらしや」があった。パンや駄菓子を売っており生徒の憩いの場でもあった。もるおばさんは、95歳で昭和53（1978）年に亡くなったという。店のたたずまいは昔のままである。

「あたらしや」の前を左側の学校の土塀に沿って進むと、学校の裏門ならぬ横門があった。この路の右側、今の観光会館あたり一帯が運動場であった。路面よりやや高い土手の内に、高い金網のフェンスがあり、その内側に高い樹が何本か立っていた。教練のとき、中村大尉殿や順教寺少尉が、「目標右から何番目の栂の木」と号令したのがこれらである。路をはさんで横門と運動場の入口が向き合っていた。昼食の休憩が終り、始業のベルが鳴ると多数の生徒が流れ込むように運動場から横門に入るため路上の交通を妨げたこともあった。まだまだ思い出がありますが、おぼろげな記憶を文にしました。往時を偲んで下されば幸いです。



画・笠島伍朗（一中37期・一泉桜美会会員）

ＯＢの参加をお願いします！〝一泉行列〟

〝一泉行列〟が今年も記念祭前日の9月1日、一中旧校舎のあった本多町から泉野出町の現校地まで、約4.5キロを行進します。

一泉100周年に向けて、〝一中魂を泉丘へ運ぶ〟をモットーに、多くの人々に泉丘高校生の姿を知ってもらおうと、平成2年9月、第1回一泉行列が催され、今年は3回目。

14時50分、現地に集合し結団式を行なったあと15時出発。

道順：旧校舎の松の木―香林坊―片町―野町広小路―有松―市営グランド―泉丘グランド（所要時間は約1時間30分）

今回からは、ＯＢの方々にも参加を呼びかけ、来年の創立100周年記念事業を盛り上げようと、行列実行委員会では企画を練っています。

一中、泉丘ＯＢの皆様、いっしょに歩きませんか。途中参加も自由です。

名簿編纂委員会より

同窓会の盛衰はすべて名簿が原点というのが名簿委員会の主張で、特に創立100周年の記念事業の一環なのでその歴史的資料の意味も大切だと思っています。

しかし委員会のやれる事には限界がありますので、各期にお願いしてそれぞれの期の会員の資料を4年3月31日迄に出していただいた。更にその間『一泉』19号に一中、泉丘、通信の不詳者合計1,351名につき、広く手掛かりや資料の提供をお願いしたところ5月1日現在約230名（17%）の会員の消息が判明しました。

5月から6月にかけて名簿のゲラ刷が逐次出来上り、各期の常任委員宛に発送しました。

ゲラ刷を各期で検討して頂く期限は8月15日としましたのは、平成5年7月末の名簿完成の予定から決めましたので是非御協力をお願いします。

今年もいらっし　よるまっし

'92関東一泉同窓会のご案内

関東一泉同窓会会長　浦　　茂

梅雨が明け、夏祭が待ちどおしい頃となりました。

本年の関東一泉の集いは、会場を再びお馴染みの市ケ谷に移すことになりました。昨年に引続き大勢の会員の方々にご参加願い、又金沢からも多数の来賓をお迎えして大いに語らいの輪を広げ、お楽しみいただきたいと存じます。〝今年もいらっし　よるまっし〟で、是非皆様のご出席を心よりお待ち致しております。

日時　平成4年10月23日㈮　午後6時～8時30分
受付開始午後5時30分
総会並びに懇親会
懇親会では郷土の太鼓等、活気溢れるものを予定しています。

会場　グランドヒル市ケ谷　新館3F「瑠璃の間」
ＴＥＬ03―3268―0111

会費　男性10,000円　　女性9,000円

一泉100周年記念美術展
―作　品　募　集―

洋画・日本画（10号～100号）・書（半切まで）・工芸デザイン（パネル貼、全判まで）。

期日・平成5年10月14～19日

会場・金沢市香林坊・大和8Ｆホール

同好の皆様の御応募を期待します。

詳しくは斉藤弥吉氏（記念美術展委員会副委員長・金沢市南森本町ワ31―4
ＴＥＬ58―1033）まで。

第20回一泉桜美会展のご案内

（金沢一中・泉丘卒業生美術展）

と　き＝9月3日㈭～9月8日㈫
ところ＝金沢市香林坊「大和」7階ホール

名簿委員こぼればなし

昭和15（1940）年卒業47期の福岡二郎氏。同窓親族の資料を調査していた名簿委員の中川恒雄（18期）氏から、「6期の福岡喜洋氏が脱落している」との電話がきた。早速、二郎氏に手紙でたずねたところ、「父喜洋は、明治31（1898）年に4了で金沢医専へ進学」との返事。本来ならば明治42年、6期の卒業生であることが判明した。当時、医専へは4了で入学出来たのであるが、喜洋氏は「4了の者は同窓会名簿には収載されないのだ」と生前いっておられたという。

小生は再度二郎氏に手紙を書いた。「とんでもないことです。どのような理由で今迄脱落したかは詳にすることは不可能ですが、どうか6期生に組込む事を承認して下さい」「父も喜ぶでしょう」と折返しお便りを頂いた。

4了の印は明治30年から名簿に見えるが、このような名簿洩れの例が他にもあるのではないかと些かに心配になってきた。しかし、詳しく調査する原資料が殆んど残っていないため、同窓親族からのお申し出を心待ちにしています。

なお、福岡二郎氏の兄一喜氏は、昭和6年一中入学、8年に不慮の死を遂げられたという。本来43期卒業になる筈ですが、従来の名簿には、何ら掲載されておりません。（一中41期平石英雄記）

初代泉丘高校長
山本外吉先生逝去

泉丘高校の初代校長　山本外吉先生が平成3年10月7日、金沢市暁町の自宅でなくなられました（90歳）。

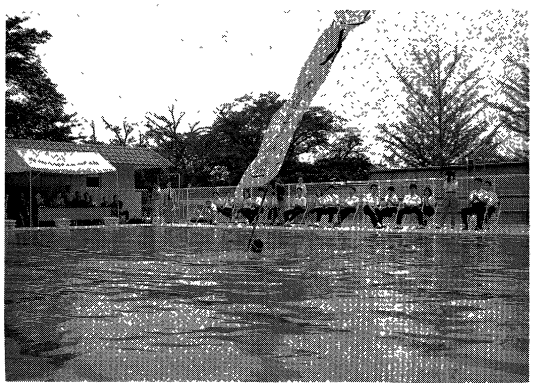
戦後の混乱期、新制泉丘高校の校長として昭和24年から13年間、校風の基礎づくりに努められた。同30年、それまで別々だった一中と泉丘の両同窓会が、山本先生の御尽力で一体化、新たに一泉同窓会として発足したこともなつかしい。一泉70周年（昭和38）を控えた昭和37年退職。その後、金沢大学教養部教授、昭和46年から57年まで金沢経済大学学長をつとめられました。ご冥福をお祈りします。

═══盛大に新プールの完成式═══

改築中だった泉丘高校のプールが完成し7月7日、プール開きが行われ、澁谷亮二一泉同窓会会長、教職員、在校生ら約100人が参加して新しいプールの完成を祝いました。

船登芳雄校長のあいさつに続き、工事関係者への感謝状が贈られ、生徒を代表して牧畠正明生徒会長が「大切に有意に使います」と謝辞を述べました。テープカットのあと、錦丘高校の石田健教諭（泉丘4期・泉泳会OB）による浮き身四態、水中の大旗振りなどの古式泳法が、また昨年の石川国体で6位に入賞した小泉輝子・上田千穂子両選手（3年在学中）のシンクロナイズド・スイミングの模範演技が披露され、最後は水泳部員の新プール初泳ぎでしめくくりました。

プールは25メートル6コースで、水深は1.2から1.4メートル。3月から工事が始められ、総工費6,500万円。



「一泉文庫」充実に一層のご協力を!!

すでに本紙でお知らせしたように、創立100周年記念事業の一環として、卒業生の編著書を一堂に集めた「一泉文庫」の設立を決め、準備を進めています。

文庫には、学術書、小説、随筆、歌集、詩集などジャンルを問わず、卒業生の編著書を収集し、同窓生、在校生ら幅広い読者の閲覧を目指しています。

学校の図書予算の都合もあり、甚だ勝手ですが、各位の御芳志に甘え、ご恵贈賜りたく重ねてお願い申し上げます。

お願い

「同窓生の集い」へのご寄稿は、紙幅の都合もあり、400字以内でご執筆いただき、「一泉」編集室（一泉同窓会事務局内）までお送り下さい。写真を添えていただければ幸甚です。

◇実行委員会役員の変更◇

記念パーティー委員会の委員長小川忠男氏（一中49期）が平成3年11月27日急逝されました。後任として一中49期の荒川正氏が就任されました。

『一泉』編集室
高川　義一（室長　一中53期）
堀口　　渉（一中45期）　荒木澄子（泉丘3期）
浅香以都子（泉丘10期）　小林弘子（泉丘12期）
題字・坂野雄一（一中54期）